

国際日本学部 国際文化交流学科

教育研究上の目的

国際文化交流学科は、「世界」や「世界における日本」についての深い知識と洞察力、外国語の実践的運用能力、多文化を理解する力を身につけた、文化間の交流に貢献できる人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ、国際日本学部国際文化交流学科では、学生が、

- (1)世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等について広範な知識を得ること
 - (2)少人数クラスや実践を通じた授業により、外国語の運用能力およびコミュニケーション能力を伸張できること
 - (3)日本文化を含む多様な文化の共通点と相違点を理解すること
 - (4)さまざまな文化に寛容で、文化の相違を越えて意思疎通と交流ができること
 - (5)実践的な分野に応用できる力を備えること
- を、教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学科のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され、学士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1)社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
- (2)情報の収集・分析・発信の能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1)外国語の運用能力を身につけている。
- (2)日本語や英語での発表・論文作成などのアカデミックスキルを身につけている。
- (3)文化を理解し適切に伝える文化間コミュニケーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1)世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等についての専門的知識を身につけている。
- (2)文化交流、観光文化、言語・メディア、国際日本学という4つの専門的な知識のいずれかを身につけている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学科は、文化交流において国際社会に通用する素養を総合的に修得することができるように、以下のような学修・教育課程を編成し、教育・評価を行っています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1)世界や日本の現状を知り、多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
- (2)専門的知識を修得しつつ、自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成する、少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
- (3)実践的なコミュニケーション能力を身につける外国語科目

- (4)世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等についての専門的知識を修得する専門科目(文化交流、観光文化、言語・メディア、国際日本学のうち、一つの専門を重点的かつ体系的に学修できるコース科目)
- (5)人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目

2. 教育の方法と評価

- (1)演習・ゼミナールでは、少人数・双方向型教育を徹底し、1年次に「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」、2年次に「コース演習」、3年次に「ゼミナール」、4年次に「卒業研究」を配置することによって、学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し、自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成します。外国語科目群についても少人数教育を徹底し、実践的なコミュニケーション能力を育成します。
- (2)4つのコースを設定し、学生がその中から一つ選択することで専門的かつ体系的な知識を得ることを可能にします。
- (3)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

1. 大学教育によって培う能力

- (1)世界の文化等について多角的かつ総合的に理解する能力
- (2)外国語の運用能力
- (3)文化間交流についての専門的知識ならびに文化間コミュニケーション能力

2. 本学科の求める入学者

- (1)世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等の学修に関心と意欲を持っている人
- (2)基礎的な学力を有し、外国語の学修に関心と意欲を持っている人
- (3)文化を理解し適切に伝えることで、諸外国の人々と国際的な交流を深めたいと思っている人

3. 高校までの能力に対する評価(選抜方法)

本学科では多様な入学試験を実施することにより、

- (1)高等学校までの学習を通じて大学での学びに必要な基礎学力を身につけた人
 - (2)世界の様々な文化や価値観の違いについて考えることに関心を持っている人
 - (3)外国語の修得に強い関心を持っている人
 - (4)文化間の交流に貢献しようと考えている人
- を受け入れます。